

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り③

カリキュラム・マネージャー

生徒用アンケート意識調査を実施

令和6年7月10日（水）から19日（金）にかけて、生徒アンケートをお願いしました。アンケート項目は、「交流及び共同学習」の経験、社会参加への意欲、自己有用感、自尊感情、共同学習への関心を観点にした質問になっています。

本調査は「交流及び共同学習」の実施にかかわって生徒一人一人の意識を把握するとともに、本事業の成果を検証することを目的にしています。

中札内中学校で授業参加（国語、数学）

令和6年7月18日（木）、中高養の2名の先生が初任段階教員研修の一環で中札内中学校の特別支援学級の授業にSTとして参加しました。

国語の授業では漢字の読みの確認、数学では生徒観察が中心となりました。

授業の「振り返り」では「聞く場面、話す場面の切り替えの大切さ」「学習する雰囲気づくり」「生徒の実態の相違への対応」などについて話し合われました。

その後、特別支援学校長の経験のある先生から豊富なお話をいただきました。先生は「特別支援学校では『教科を合わせた指導』の意義が薄らぎ、教科のねらいへの意識が希薄になっている。教科の専門性を追求する必要がある。」と強調されました。また、「STの役割」の一つとして、「覚えた英単語や読めるようになった漢字など、一人一人の子どもの学習状況を細かく記録化することが重要」と、ご自身の実践を紹介しながら説明されていました。



連携校の協力を得て「主体的・対話的で深い学び」の追求を

「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項に基づき、先生方から要望を集約しています。実施要項では次の様な例示があります。これらも参考にされ、先生方の教育実践に根ざしたアイデアをいただきたいと思います。〔8月9日（金）締め切り〕

○間接的な「交流及び共同学習」

「文通や作品の交換、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用したコミュニケーション」が学習指導要領で例示されています。

○連携校の教育資源を活用した教育活動（ひと、もの、情報）

インクルーシブ教育の理念の実現に向けた、教育指導に必要な教材・教具、分掌事務の遂行に参考となる様々な資料の活用、授業参観、校内研修参加、授業体験、教材研究支援、授業支援等を想定しています。

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。